

機関番号： 32620

研究種目： 基盤研究（C）

研究期間： 2009～2011

課題番号： 21590580

研究課題名（和文） 日本の近代医学教育の独自性について歴史的視点からの研究

研究課題名（英文） A study on the uniqueness of the modern medical education in Japan from the historical standpoint

研究代表者

坂井 建雄 (SAKAI TATSUO)

順天堂大学・医学系研究科・教授

研究者番号： 90114488

研究成果の概要（和文）： 明治期から現在に至るまでの学校制度・医師免許制度の変遷と国立・公立・私立の医学校の設立変遷の状況を「文部省年報」の統計と各学校の沿革を資料として用いながら批判的に調査を行い、医学校の変遷を7つの時期に分けて整理することができた。また明治初期の公立医学校について調査し、明治10年代に44の公立医学校が設立されたことを明らかにした。第112回日本医史学会総会を医学教育史をテーマとして開催した。『日本医学教育史』を刊行した。

研究成果の概要（英文）： The historical change of system of school and medical license was reviewed, and the history of national, public and private medical schools was critically surveyed. From these survey, the history of medical schools in Japan was divided into 7 periods. The research on the public medical schools in the early Meiji era revealed that 44 public medical schools were established in the Meiji 10's. I hosted the 112th annual congress of Japanese Society of History of Medicine to overview the history of medical education in Japan. The book "History of medical education in Japan" was published.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野： 医歯薬学

科研費の分科・細目： 医療社会学

キーワード： 医学教育史、医科大学、医学専門学校、学制百年史、医制百年史、高等教育

1. 研究開始当初の背景

日本の医学教育にはさまざまな問題点が指摘され、諸制度の改革が進められている。医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議の報告（平成13年）では、カリキュラム・評価システム・臨床実習・教育能力開発について問題点が指摘され、それに基づいてカリキュラム改革と共用試験が始まった。また医師の新臨床研修制度により臨床研

修の必修化とマッチングも開始された（平成16年）。その一方でこれまで、日本の医療が低コストで高度な水準を保ってきたことも、見過ごしてはならない事実である。日本の医学教育と医療の評価においては、単に問題点を指摘しそれを解決するだけでなく、歴史的・文化的な文脈の中で形成されてきた日本独自の医学教育と医療の特質を総合的に考慮する必要がある。

2. 研究の目的

・医学教育における解剖学教育の位置づけ、日本の独自性

世界のどの国においても解剖学と人体解剖実習は、医学教育の最重要の基礎である。とくにわが国の解剖学教育は、独自の献体を背景にして精神的・倫理的に大きな教育効果を有し、日本医学教育の特徴の一つとなっている。

研究代表者の坂井は、世界各国の献体・人体解剖の特色を調査・研究して、日本の解剖学教育の独自性を明らかにし（「解剖学教育を支える献体の愛」日本医師会雑誌、2007）、また古代以来の解剖学の歴史を俯瞰する著書を上梓した（『人体観の歴史』岩波書店、2008）。献体によって無条件・無報酬で遺体が提供されることは世界共通であるが、欧米各国では解剖・火葬後の遺骨が原則として大学が合葬処理するのに対し、日本では遺骨が原則として遺族に返還される。日本では遺体・遺骨に対して遺族の強い思い入れがあることの証左である。そのため日本では、遺体の利用目的が強く制限されるが、学生に対する精神的・倫理的な教育効果がきわめて大きい。坂井は、献体運動の中核組織である篤志解剖全国連合会の事務局長（2002-2006）・会長（2006-）を務めている。

・わが国の医学教育の歴史的起源

わが国の近代医学教育は、明治政府が創始した医学教育制度に由来する。明治維新直後に各藩が主導して行った多様な医学教育は、明治5年の学制公布によって途絶し、一方で東京大学ではドイツ人教師ミュルレルらによるドイツの医学教育が本格的に開始される。しかしその後も私立と公立の医学校が全国に多数存在し、ドイツ人教師から直接学んだ医師は2%に過ぎなかった。その後20年ほどの歳月をかけて、全国の医学校にドイツ的医学教育が拡大することを、坂井（「我が国の近代解剖学教育の成立過程」解剖学雑誌、2008）と澤井（"Die Bedeutung der deutschen Sprache in Japans akademischem Leben und der Medizin" 2007）が明らかにした。日本独自の医学教育は、このドイツ的医学が全国に拡大していく過程で形成されていった。

・明治期の医学教育の実情

明治期の各医学校における医学教育の内容については、資料の収集が進んでいる。明治末の仙台医学専門学校については、魯迅とその同時代の学生の授業ノートが残されており、授業の内容とその実態についての解明を坂井が進めている（「明治後期の解剖学教育」解剖学雑誌、2007）。

明治期の医学書・教材について、解剖学では研究が進んでいる。解剖学書については、

連携研究者の島田が浩瀚な報告を行っている（「解剖学書誌から見た日本における近代解剖学の始め」解剖学雑誌、2007）。英語の解剖学書の翻訳から始まり、ドイツ語の講義や解剖学書に基づく著作を経て、明治後期には独自の解剖学書が現れた。

・現代日本における医学教育の特質

研究代表者の坂井と研究分担者の澤井・島田・福島は、医学教育を実際に行っているまさに当事者である。とくに福島は本務の教育センター長として医学教育の全般を掌握すると共に、共用試験など全国的な医学教育制度の改革にも携わっており、日本の医学教育の実情に詳しい。

3. 研究の方法

本研究は、医学教育に取り組みながら医学史の研究に従事している坂井建雄（研究代表者）に加え、島田和幸、澤井直を研究分担者・連携研究者に加えて、医学教育の専門家の立場から福島統を、教育学の専門家の立場から瀧澤利行を、東北大学における資料収集のために大村泉を連携研究者として加え、日本における医学教育の起源と発展の過程を研究する。

(1) 近代医学教育の成立過程

明治5年に学制が公布されて以後、医学教育・医師免許制度が整備されていく過程において、官立・公立・私立の医学校は激しく盛衰する。明治12年に最大25校あった私立医学校は明治17年には2校になり、明治17年に30校あった公立医学校は明治21年には3校が存続し5校が官立に移行して、残りは廃止される。「学制百年史」に医学校数および医学生数の推移についての統計が掲げられているが、実際の医学校・医学生の数と乖離のあることが判明している。

大学図書館や公文書など各種の原資料から、歴史上の医学校についてその変遷、教員組織を再調査して、医学教育史の基礎資料を集積する。また医学教育制度に関してのドイツからの影響を明らかにするため、ドイツにおいても調査を行う。ドイツではドイツの医学教育制度の発展過程、公文書や大学内の文書に見られる日本の医学・日本人医学生の状況、日本に派遣されたドイツ人医師について調査も行う。（坂井、澤井、瀧澤）。

(2) 医学教材

日本語で書かれた医学書は、明治期の医学生が用いた重要な教材である。解剖学書については、その変遷が明らかにされているが、これ以外の科目で用いられた医学書について調査を広げて行う。医学書の出版状況、執筆した著者についての調査を行い、医学書・解剖学書が成立した状況を明らかにしていく。また明治期の医学書は学生にとって高価なものであり、授業中に板書と口述を書き取

った授業ノートが最重要の学習手段であった。人体模型、掛け図、スライドなど、補助教材についても可能な限り調査を行う（島田、大村）。

(3) 医学教育の実態解明

明治期の医学校でどのような講義と実習が行われ、学生がどのように受け止めていたかは、授業ノートや教室の日誌など、当事者の記録から読み取ることになる。明治期から続く大学医学部のうち、これまで東北大学から明治期の医学生の実態の授業ノートの画像データが供与され、東京大学医学部で資料閲覧の機会を得ており、当時の医学教育の実情を知る資料の調査を行う（坂井、福島、大村）。

(4) 医学教育史研究の方法論についての検討

医学教育史という領域についての研究方法論は、いまだ十分に整備されていない。医学教育史ワークショップを開催して、医学教育史研究における資料の利用方法・発掘方法についての検討を行い、包括的・統合的な医学教育史に発展させるための討論を行う。またドイツ医学の日本近代医学への影響について研究しているグループとも共同ワークショップを行い、医学教育制度の成立過程について検討する。

4. 研究成果

明治期から現在に至るまでの学校制度・医師免許制度の変遷を「学制百年史」、「医制百年史」をもとに概観するとともに、国立・公立・私立の医学校の設立変遷の状況を「文部省年報」の統計と各学校の沿革を資料として用いながら批判的に調査を行った。その結果、医学校の変遷を7つの時期に分けて整理することができた。また明治初期の公立医学校について調査し、明治10年代に44の公立医学校が設立されたこと、明治15年の医学校通則が交付された際に、21校が甲種医学校になったこと、明治20年に高等中学校が設立されて5校がその医学部になったこと、同年に府県立医学校の費用を地方税から支弁することが禁止され、大半の公立医学校が廃校になり3校のみが存続したことが分かった。44校の明治初期公立医学校のうち、医学校として存続し現在の医科大学につながるものが8校（千葉、宮城、岡山、金沢、長崎、大阪、京都、愛知）、廃止されて医療機関として存続し、その後の医科大学の礎となったのが9校（岩手、福島、新潟、岐阜、三重、神戸、福岡、熊本、鹿児島）、医療機関として存続し現在でも病院であるものが17院（公立病院8院（函館、山形、須賀川、山梨、広島、北九州、佐賀、大分）、赤十字病院8院（富山、福井、長野、和歌山、鳥取、松江、高松、松山）、民間病院1院（高知））、医学校としても医療機関としても廃止されたのが11校（青森、秋田、茨城、栃木、群馬、埼玉、浜松、

堺、華浦、徳島、宮崎）である。

平成23年6月に第112回日本医史学会総会を主催し、医学教育史をテーマとするシンポジウムを行い、日本の医学教育の歴史を概観した。このシンポジウムでの講演をもとに『日本医学教育史』を刊行した。これは我が国の医学教育の歴史を体系的に記述する初めての学術書である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

- ① Sakai T: Historical development of modern anatomy education in Japan. J-Jap-Soc-Med-Hist. 2010 Mar; 56(1): 3-23 査読有
- ② 松本秀志; 坂井建雄: 『全体新論』に掲載される解剖図の出典について. 日本医史学雑誌. 2009 Dec; 55: 463-497 査読有
- ③ 澤井直; 坂井建雄: 昭和初期解剖学用語の改良と国語運動. 日本医史学雑誌. 2010 Mar; 56(1): 39-52 査読有
- ④ 坂井建雄: 魯迅が仙台医学専門学校を退学した事情について——授業ノートからの検討. 野草. 2011 Apr; 87: 1-16 査読有
- ⑤ 坂井建雄: 19世紀における臨床医学書の進化. 日本医史学雑誌. 2011 Mar; 57(1): 19-37 査読有
- ⑥ 坂井建雄: 木口木版画による解剖図. 図書. 2009 Feb; 720: 26-29 査読有
- ⑦ 坂井建雄: ソヴァージュ（一七〇六～一七六七）の疾病分類学. 医譚. 2010 May; 91: 109-123 査読有
- ⑧ 坂井建雄; 澤井直; 瀧澤利行; 福島統; 島田和幸: 我が国の医学教育・医師資格付与制度の歴史の変遷と医学校の発展過程. 医学教育. 2010; 41(5): 337-346 査読有
- ⑨ 坂井建雄: ヴンダーリヒ（一八一五～一八七七）の臨床医学. 医譚. 2010 Nov; 92: 66-90 査読有
- ⑩ 坂井建雄, 池田黎太郎, 澤井直, 安西なつめ: ガレノス「人体諸部分の有用性 第1巻」の解題と翻訳. 日本医史学雑誌. 2011 Dec; 57(4): 455-481 査読有

〔学会発表〕（計13件）

- ① 坂井建雄: 献体と人体解剖を医療に役立てるにあたっての今日的な課題. 第29回献体実務担当者研修会, 日本歯科大学, 2011. 11. 13.
- ② 坂井建雄: 我が国の近代医学教育のあゆみ. 医道顕彰会, 京都, 2011. 10. 10.
- ③ 坂井建雄: 我が国の近代医学教育の源流—明治初期の公立医学校. 第112回日本医史学会総会. 2011. 6. 11. 東京

- ④坂井建雄：魯迅が仙台医学専門学校を退学した事情について—授業ノートからの再検討。第18回総合学術研究集会。2010.11.21. 仙台
- ⑤坂井建雄：医学教育における人体解剖の立ち位置を探る—献体、機能解剖、臨床解剖。第42回日本医学教育学会大会。2010.7.31. 東京
- ⑥松本秀士；坂井建雄：近代中国における西洋解剖学の初期的伝播について。第111回日本医史学会総会。2010.6.12. 水戸
- ⑦澤井直：解剖学の脱動物化—ガレノス解剖学の伝承と解剖学の変化。第111回日本医史学会総会。2010.6.12. 水戸
- ⑧坂井建雄：医学校推移の基礎資料としての文部省年報の統計について。第111回日本医史学会総会。2010.6.12. 水戸
- ⑨坂井建雄：献体と人体解剖を臨床医学に役立てるにあたっての今日的な課題。篤志解剖全国連合会合同研修会。2010.3.26. 盛岡
- ⑩坂井建雄：人体観の歴史を読み解く。京都府医師会学術講演会。2010.3.18.
- ⑪坂井建雄：解剖学書における解剖図の類型と歴史の変遷。第110回日本医史学会総会。2009.6.6. 佐賀
- ⑫澤井直：シルヴィウスによるヴェサリウス批判についての検討。第110回日本医史学会総会。2009.6.6. 佐賀
- ⑬坂井建雄：解剖学者による魯迅授業ノート所見。厦門シンポジウム。2009.9.26. 厦門

[図書] (計5件)

- ①坂井建雄；橋本尚詞：ぜんぶわかる人体解剖図。成美堂出版、東京、2010 Apr; 264 pp.
- ②坂井建雄：人体解剖の実習中継—医学部で見た体の不思議と命の尊さ—。技術評論社。2010 Oct; 200 pp.
- ③坂井建雄：献体—遺体を捧げる現場で何が行われているのか—。技術評論社。2011 Jul; 198 pp.
- ④坂井建雄；池田黎太郎；澤井直：ガレノス解剖学論集。京都大学学術出版会。2011 Dec; 275 pp.
- ⑤坂井建雄編：日本医学教育史。東北大学出版会。2012 Feb; 374 pp.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂井 建雄 (SAKAI TATSUO)
順天堂大学・医学系研究科・教授
研究者番号：90114488

(2) 研究分担者

澤井 直 (SAWAI TADASHI)
順天堂大学・医学系研究科・助教

研究者番号：40407268

大村 泉 (OMURA IZUMI)
東北大学大学院・経済学研究科・教授
研究者番号：50137395

(3) 連携研究者

島田 和幸 (SHIMADA KAZUYUKI)
鹿児島大学大学院・医歯(薬)学総合研究科・教授
研究者番号：80130524

福島 統 (FUKUSHIMA OSAMU)
東京慈恵会医科大学・教授
研究者番号：60173332

瀧澤 利行 (TAKIZAWA TOSHIYUKI)
茨城大学・教育学部・教授
研究者番号：80222090